平成12年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

2001

長野県更埴市教育委員会

更埴市埋蔵文化財調査報告書
2001
長野県更埴市教育委員会

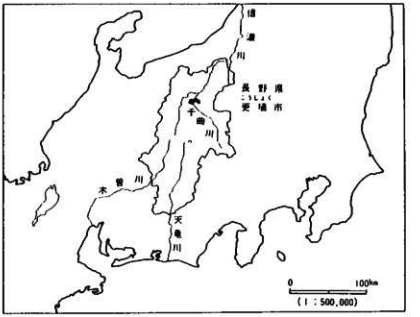
信州大学附属図書館教育学部分館

平成12年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

2001

長野県更埴市教育委員会



更埴市の位置

例　　言

1　本書は、更埴市教育委員会が平成12年度に実施した埋蔵文化財調査報告書である。また、一部平成11年度に実施した調査も収録している。

2　調査は、更埴市教育委員会生涯学習課が主体となり、文化財係が担当した。

更埴市教育委員会事務局

教育長	下崎文義
教育次長	滝沢賢二
生涯学習課長	柳原康廣
文化財係長	金井幸二
文化財係	佐藤信之　小野紀男　堀内美和　宮島裕明　中沢はる美

3　調査担当者は、文化財係担当職員及び森将軍塚古墳館学芸員があたり、調査員・作業員を募り調査を実施した。また、必要に応じて研究者の指導・助言を受けた。

4　本書は、各調査担当者が執筆して作成した。発掘調査のうち、規模の大きなものについては本書と別冊で報告している。

5　本書に掲載した位置図は、特にことわりがない限り、更埴市都市計画基本図を２分の１に縮小し、5,000分の１で掲載した。

6　本書中の方位は真北を示している。

7　各調査の出土遺物・実測図・写真等のすべての資料は更埴市教育委員会が保管している。なお、資料には各調査ごとに調査記号を付し、保管されている。

目　　次

例言・目次

平成12年度埋蔵文化財調査概要 …… 1

1　生仁遺跡　発掘調査 …… 7

2　大塚遺跡　発掘調査 …… 11

3　市内遺跡　発掘調査 …… 15

4・5　試掘調査 …… 25

4　屋代城跡　5　八幡遺跡群

6～12　立会調査 …… 27

6　大宮遺跡　7　土口遺跡　8　大浦遺跡　9　更埴条里水田址

10　屋代遺跡群　11　横まくり遺跡　12　更埴条里水田址

平成12年度埋蔵文化財調査概要

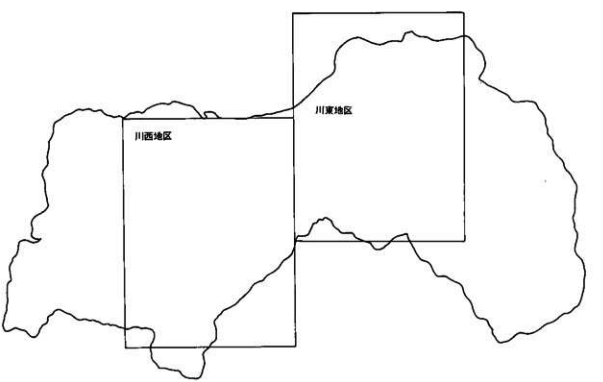
今年度実施した発掘調査は３件であり、昨年度より１件減少した。調査費用についても昨年より減少しており、開発事業に伴う調査は減少傾向にある。民間の開発事業に伴う発掘調査は昨年度に続いて１件もなく、公共事業に伴う発掘調査が２件実施されている。

公共事業では、平成11年度から実施している県営ため池等整備事業に伴う生仁遺跡の発掘調査が行われた。昨年度検出した流路の補足調査等を行い、多くの木製品等が出土した。生仁遺跡の調査は本年度をもって完了し報告書が刊行される。防火水槽建設に伴う大塚遺跡の調査では、平安時代の水田面を検出している。この水田面の上部を覆う砂層は９世紀末に起きたとされる「仁和の洪水」によって堆積したものと考えられており、その厚さは２ｍ余に達するものであった。

平成８年度より国庫補助を受け実施している市内遺跡の発掘調査は、倉科将軍塚古墳及び大宮遺跡の調査を実施した。倉科将軍塚古墳は、全長82ｍの前方後円墳であり、県下で３番目の規模を持つものであることが判明した。また陪塚と考えられる２号墳からは短甲や刀剣などが出土した。雨宮坐日吉神社境内地となる大宮遺跡の調査では、古墳時代の住居跡が検出され、官衙に関連すると考えられる遺構を検出することはできなかった。

民間の開発事業は昨今の不況を反映してか全体的に落ち着いた状況にある。特に宅地造成に伴う調査が減少しており、試掘・立会調査を合わせて１件しかなかった。

国道18号線坂城更埴バイパス建設に伴う発掘調査が、長野県埋蔵文化財センターによって今年度より開始されている。



第１図　調査位置配置図

平成12年度調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	原因事業	原因者
	発掘調査			
1	生仁遺跡	雨宮	公共事業＝県営のため池等整備事業	長野地方事務所
2	大塚遺跡	屋代	公共事業＝防火水槽建設	更埴市（総務課）
3	市内遺跡 倉科将軍塚古墳 屋代遺跡群大宮遺跡	倉科 雨宮	学術＝範囲確認調査	更埴市 森将軍塚古墳館 生涯学習課
	試掘調査			
4	屋代城跡	小島	公共事業＝市営住宅建設	更埴市（建設課）
5	八幡遺跡群	八幡	公共事業＝宅地造成	更埴市土地開発公社
	立会調査			
6	大宮遺跡	雨宮	公共事業＝道路建設	更埴建設事務所
7	土口遺跡	土口	公共事業＝道路建設	更埴市（建設課）
8	大穴遺跡	森	公共事業＝道路建設	更埴市（建設課）
9	更埴条里水田址	森	民間事業＝移動通信基地局建設	㈱シーテック長野支社
10	屋代遺跡群	雨宮	公共事業＝道路建設	更埴市（建設課）
11	横まくり遺跡	八幡	公共事業＝道路建設	更埴市（建設課）
12	更埴条里水田址	屋代	公共事業＝道路建設	更埴建設事務所
	長野県埋蔵文化財センター調査			
13	八幡遺跡群	八幡	公共事業＝国道18号バイパス	国土交通省

調　査　期　間	面　積	費　用	備　　考
H12・4・17～5・24	200㎡	5,000,000円	
H12・6・1～6・19	60㎡	1,682,404円	
H12・8・22～9・22 H12・8・23～9・27	400㎡ 100㎡	9,000,000円	H13継続予定 国・県補助事業
H12・10・12	トレンチ1	重機負担	
H12・12・22	トレンチ3	39,900円	
H12・3・14			
H12・7・24			
H12・8・23			
H12・8・31			
H12・10・27			
H12・11・7			
H12・11・13、12・25			
H12・6・14～12・15	6,000㎡		

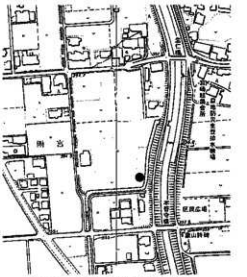
第２図　更埴市川西地区調査位置図（１：25,000）

第３図　更埴市川東地区調査位置図（１：25,000）

1　生仁遺跡　発掘調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　生仁（なぶに）遺跡
　　（市台帳No.31-11調査記号ＮＭ５）
2　所在地及び　更埴市大字雨宮字生仁
　　土地所有者　長野地方事務所
3　原因及び　公共事業＝県営ため池等整備事業
　　事 業 者　長野地方事務所
4　調査の内容　発掘調査（調査面積約200㎡）
5　調査期間　平成12年４月17日～平成12年５月24日
6　調査費用　5,000,000円
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　　調査指導　木下正史　東京学芸大学教授
　　担 当 者　小野紀男　更埴市教育委員会
8　種別・時期　水田跡　平安時代～中世
　　自然流路　弥生～平安時代
9　遺構・遺物　水田跡　平安時代～近世　３面以上
　　自然流路　弥生時代～平安時代　１基
　　土器片　弥生時代～平安時代　コンテナ　12箱
　　木製品　弥生時代～平安時代　コンテナ　５箱



第４図　生仁遺跡調査位置図

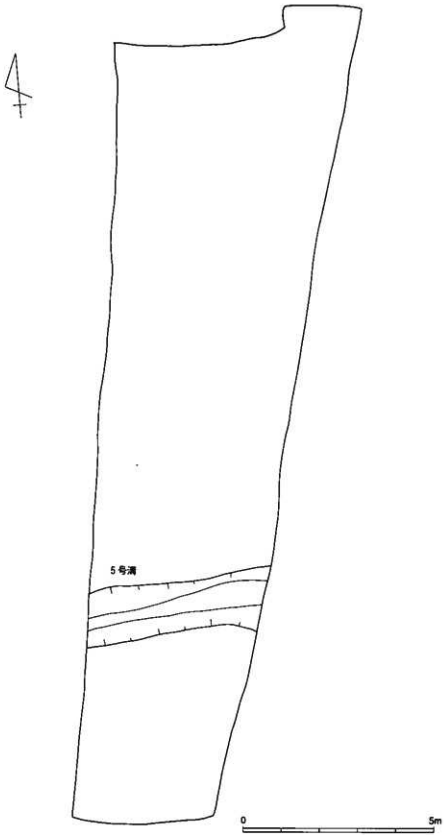
Ⅱ　調査の所見

調査は平成11年度より継続して実施しているものであり、今年度は水路付け替え部分及び、昨年多量の遺物が出土した自然流路の補足調査を行った。

水路部分からは、昨年度と同様に少なくとも３面の水田面を検出した。昨年、平安時代の住居跡を検出した微高地が水路部分まで広がっている可能性があったため、住居跡の検出も想定していたが、水田面のみの検出であった。水田面の下層からは溝を１基検出している。水田造成時に削平されたものと思われ、深さは最大でも10cm程度しか残っていなかった。出土遺物はない。

また、排水機設置予定地付近で実施した自然流路の補足調査では、護岸を形成していた可能性のある杭が打ち込まれたままの状態で何本も検出された。出土遺物も多く、土器の他に木製品も出土している。昨年よりも深い地点まで掘り下げたためか、出土土器には弥生時代後期～古墳時代中期にかけてのものが目立っている。

調査は本年度をもって完了し、報告書が刊行される。



第5図　生仁遺跡全体図

生仁遺跡
水路部分全景
(北側より)

深掘調査区
遺物出土状況
(西側より)

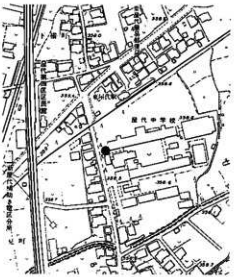
深掘調査区
調査風景
(北側より)

深掘調査区出土遺物

2　大塚遺跡　発掘調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　大塚（おおつか）遺跡
　　（市台帳No.31-1 調査記号ＯＴＫ２）
2　所在地及び　更埴市大字屋代字大塚 810
　　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝防火水槽建設
　　事 業 者　更埴市（総務課）
4　調査の内容　発掘調査（調査面積約60㎡）
5　調査期間　平成12年６月１日～平成12年６月19日
6　調査費用　1,682,404円
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　　担 当 者　小野紀男
　　調査参加者　猿渡久人　国光一聰　久保啓子　高野貞子　富沢豊延　中村文恵
　　堀内広人　柳沢君雄
8　種別・時期　水田跡　平安時代
9　遺構・遺物　水田跡　平安時代　２面
　　畦畔　平安時代　１基
　　土器片　平安時代　コンテナ１箱



第６図　大塚遺跡調査位置図

Ⅱ　調査の経過

平成12年１月、市総務課より更埴市立屋代中学校敷地内において、防火水槽の建設を計画しているとの連絡があった。当該地では、平成９年度より屋代中学校改築に伴う発掘調査を実施しており、古墳時代～平安時代の集落跡等を検出しているため、工事の実施に当たっては発掘調査が必要な旨、報告を行った。５月24日、文化財保護法第57条に基づく通知があり、市教育委員会ではただちに調査の準備に取りかかった。

６月１日より調査を開始し、調査区内全面より平安時代の水田面及び畦畔を検出した。この水田面の上層には「仁和の洪水砂」とされる砂層が厚く堆積していた。水田面下層の調査は部分的に行っただけであるが、少なくとも１面の水田面を確認している。６月19日、重機による埋め戻しを終え、現場における作業を終了した。

Ⅲ　遺跡の環境

発掘調査地は、東経138度８分６秒、北緯36度32分19秒、海抜358m付近に位置し、長野県更埴市大字屋代字大塚に所在する。遺跡は千曲川が北西から北東に大きく流れを変える部分の右岸に形成された広大な自然堤防上に営まれたもので、周辺の遺跡を含めて屋代遺跡群として把握されている。屋代遺跡群は、東西3.5Km、南北１Kmにわたって展開する更埴市最大の遺跡群で、高速道路や新幹線などの建設に伴う調査によって、縄文時代～平安時代にかけての多数の住居跡などが検出されている。

調査地周辺では、平成９～11年度にかけて屋代中学校改築に伴う発掘調査が行われ、古墳時代～平安時代の住居跡や条里区画に則った畦畔を持つ平安時代の水田面などを検出している。

Ⅳ　調査の所見

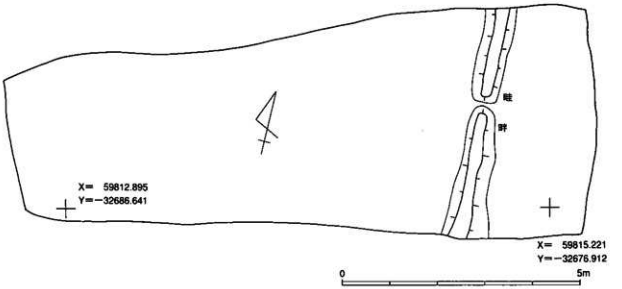
調査地は屋代中学校敷地の北西部に当たり、これまでの調査成果から平安時代の水田面が検出されると想定されている地点である。検出した遺構は水田面２面及び畦畔１基である。このうち、面的な調査を行ったものは上層の水田面のみであり、下層の水田面については層序の確認に止めた。水田土壌はいずれも灰褐色粘質土を基本とするもので、下部には鉄分の沈殿が認められる。水田面の直上を覆う砂層は、９世紀末に起きたとされる「仁和の洪水」によって堆積したものと考えられ、その層厚は180cmに達する。

畦畔はこの砂層直下の水田面に伴うものである。走向はほぼ南北方向で直線的に伸びており、下底部幅最大90cm、上端部幅40cmを測る。調査区内ほぼ中央で畦畔が途切れており、この部分が水口になるものと考えられる。水田面の標高は畦畔の西側で355.20m、東側で355.15m前後を測るため、西側から東側に向かって配水されていたものと考えられる。

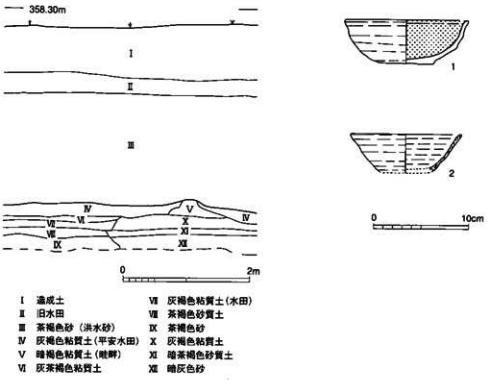
平成９年度に行った調査では、この水田面に対応すると考えられる水田面の下層から古墳時代の流路を検出している。この流路は幅10m以上、深さ2.4m以上を測る大規模なもので、水田面はこの流路が埋没した低地に造成されたものと考えられている。今回の調査では下層の調査は行っていないが古墳時代の流路が埋没しているものと考えられる。

出土遺物はわずかであり、図化できたものは２点のみである。いずれも上層の水田面より出土したものである。１は土師器坏である。内面黒色処理され、底部には回転糸切痕が残っている。２は須恵器坏であり、内外面にはロクロナデによる稜が顕著に認められる。

今回の調査により検出した水田面からは畦畔を１基検出したのみであり、水田の形状や区画を捉えることはできなかった。しかしながら、畦畔の走向は更埴条里水田址で確認されている走向と一致することから、条里区画に則った水田面であると考えられる。畦畔の規模が小型であるため、坪内を画する畦畔であると考えられる。



第７図　大塚遺跡全体図



第８図　大塚遺跡土層断面及び出土遺物

大塚遺跡全景
（東側より）

調査風景
（東側より）

出土遺物

3　市内遺跡　発掘調査

Ⅰ　倉科将軍塚古墳の概要

1　調査遺跡名　倉科将軍塚古墳（市台帳No.11）　昭和48年３月12日　長野県史跡に指定

2　所在地及び　更埴市大字倉科字北山1731-1他

　土地所有者　個人７名

3　原因及び　学術調査

　事 業 者　更埴市教育委員会　生涯学習課　更埴市森将軍塚古墳館

4　調査の内容　発掘調査（調査面積約400㎡）

5　調査期間　平成12年８月22日～平成12年９月22日

6　調査費用　7,000,000円（国庫補助3,500千円　県費補助1,050千円　市負担2,450千円）

7　調査主体者　更埴市教育委員会

　調査指導　岩崎卓也　元筑波大学教授　　木下正史　東京学芸大学教授

　担 当 者　矢島宏雄　更埴市森将軍塚古墳館

　調査参加者　滝沢　誠　静岡大学助教授　　風間栄一　長野市埋蔵文化財センター

　及び協力者　東京学芸大学大学院生・学生　静岡大学大学院生・学生

　佐藤信之　更埴市教育委員会　小野紀男　更埴市教育委員会

　関係土地所有者　倉科史跡保存会　長野県立歴史館　長野県埋蔵文化財センター他

8　種別・時期　古墳（前方後円墳）　　古墳時代

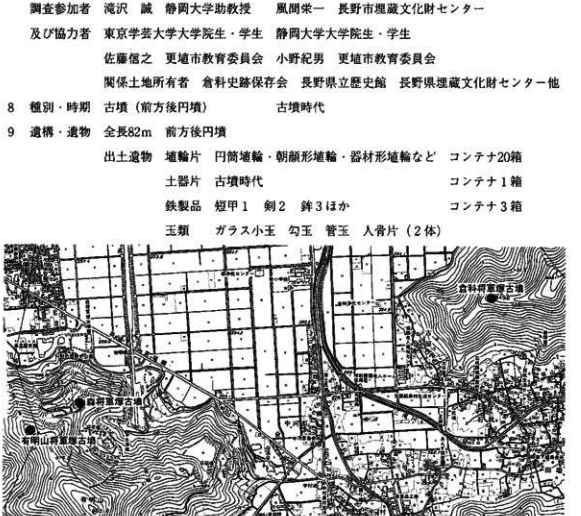
9　遺構・遺物　全長82m　前方後円墳

　出土遺物　埴輪片　円筒埴輪・朝顔形埴輪・器材形埴輪など　コンテナ20箱

　土器片　古墳時代　コンテナ１箱

　鉄製品　短甲１　剣２　鉾３ほか　コンテナ３箱

　玉類　ガラス小玉　勾玉　管玉　人骨片（２体）



第９図　倉科将軍塚古墳調査位置図（１：20,000）

Ⅱ　調査の所見

調査の経緯　平成11年度に行った更埴市指定文化財有明山将軍塚古墳の範囲確認調査に引き続き、今年度は長野県史跡倉科将軍塚古墳の範囲確認調査を実施した。調査に合わせて、後円部と前方部の盗掘坑の埋め戻しを行い、古墳の保存を図ることも調査の目的の一つとして実施した。調査の実施にあたっては、岩崎卓也・木下正史先生に指導を仰ぎ、東京学芸大学、静岡大学の大学院生・学生の調査参加、協力を得て８月22日から９月22日までの間、調査と埋め戻し作業を行った。

また、更埴市森将軍塚古墳館では、平成12年12月１日から12月24日の間「速報展－有明山将軍塚古墳・倉科将軍塚古墳－」を開催し、調査成果の一端を広く公開した。

墳丘及び竪穴式石室　今回の範囲確認調査では、墳丘の周囲を含めた墳丘測量と、墳丘主軸・後円部北側墳丘斜面・前方部南側墳丘等にトレンチを設けて墳丘範囲の確認を行った。また後円部と前方部の墳丘上にある大きな盗掘坑を調査のうえ埋め戻し、墳丘の保存を図った。

墳丘は、墳丘主軸Ｎ－82°－Ｗを示し、東から西に延びる天城山（標高649.6m）の尾根に沿って標高約540m前後に設けられている。墳丘の全長は82mを測り、墳丘は二段築成で、墳丘表面は石英閃緑岩の拳大から人頭大の葺石により覆われていた。墳丘上、段築部、墳丘裾部には、埴輪が並べられており、多量の埴輪片の出土があった。後円部北側の墳丘裾部では、円筒埴輪の底部のみが原位置で唯一残っており、埴輪の樹立位置を確認することができた。

後円部墳頂には大きな盗掘坑があり、主体部は盗掘によりほとんどが破壊されていたが、長さ６m東側（前方部側）幅1.20m、西側幅1.05m、残存側壁高0.95mの竪穴式石室が確認された。竪穴式石室の主軸は、墳丘の主軸にほぼ合致していた。両小口部分と、中央付近の側壁は崩され、床面までも掘り返されて荒れており、側壁は、石英閃緑岩の板石をていねいに持ち送り積みされていたが、壁面の赤色塗彩を確認することはできなかった。墓壙については、西側・北側トレンチにおいて部分的に確認し、墳丘盛土を掘り込んだものであることがわかった。

前方部上にも大きな盗掘坑があり調査を行ったところ、長さ5.45m、東側幅0.70m、中央部幅0.85m、残存側壁高0.76mの竪穴式石室が確認された。前方部の竪穴式石室の主軸も、墳丘の主軸にほぼ合致していた。側壁は石英閃緑岩の板石を積み上げたもので、壁面の赤色塗彩は確認できなかった。両小口は壊されていた。床面には石英閃緑岩の板石が敷き並べてあった。葺石は検出されなかったが西側の石室検出状況から石英閃緑岩の板石で覆う構造であったと推定された。

出土遺物　出土した埴輪には、円筒埴輪・朝顔形埴輪・盾形・家形・蓋形埴輪などの器材形埴輪片がみられる。埴輪には黒斑があり、Ｂ種ヨコハケで調整された破片もあった。出土した埴輪片の量は多かったが埴輪の全体がわかるようなものはなく、大きさや形態は不明である。後円部の石室の付近からは、高坏等の土器片が出土している。石室の調査に伴って、石室内の攪乱された土の中や床面付近から、碧玉製管玉８点、ガラス小玉19点、鉄製品の針状鉄器２点や鉄鏃片などが出土した。いずれも原位置をとどめていない。鉄片の中には短甲の一部と考えられる破片もあり、短甲の副葬が想定される。

前方部竪穴式石室からは、鉄製品の針状鉄器１点や刀装具と考えられる鉄器、鉄鏃５点、鉾１点の出土があったが、玉類は１点も出土していない。また小鉄片の中には短甲の一部と考えられる破片もあり、ここでも短甲の副葬が想定された。

小古墳　これまでに存在が知られていた後円部墳丘裾近くの小古墳（２号墳）のほか、地形測量の実施に伴って前方部前面の丘尾切断部より尾根側に新たに確認された小古墳１基（３号墳）の、２古墳の盗掘坑を調査のうえ、埋め戻しを行った。

２号墳は、一辺約10mほどの方墳？で、盗掘坑の周りに石英閃緑岩の板石が散乱していた。盗掘坑を中心に調査したところ、長さ4.74m、南側幅0.79m、北側幅0.73m、残存側壁高0.78mの竪穴式石室が検出された。石室の主軸はN－17°－Wで倉科将軍塚古墳の主軸とは斜交していた。盗掘坑は石室のほぼ中央部にあたり、東側の側壁が壊されていたが、両小口とも残っており、石室の小口寄りの部分に原位置を保っているとみられる遺物群が出土した。今回の調査では、石室の調査に重点を置いて行ったため。墳丘の調査は来年度に行う予定である。

出土した遺物は、被葬者のものとみられる人骨（大腿骨、北側頭位？）が石室中央にあり、その西側から直刀１点、蛇行剣１点、鉾１点、東側に剣１点が人骨と平行に出土し、いずれも切先を北側に向けて置かれていた。また刀剣類より南側の小口寄りで三角板革綴短甲が１点まとまって出土した。中央の盗掘坑から北側の小口寄りには鉄鏃が散乱した状態で９点出土し、小口付近で鉾１点が出土した。本石室においても、玉類は１点も出土していない。出土した三角板革綴短甲の保存状態は良く、錆着した地板はなかったが、後胴押付板と左前胴押付板の２点は残っていなかった。また冑は、鋲片だけが残っていた。

３号墳は、一辺約10mほどの方墳で、主体部には大きな盗掘坑が開いており、竪穴式石室の一部と考えられる石英閃緑岩の板石積みが表れていた。石室を中心に調査を実施したが、盗掘によってほとんど壊されており、石室の規模、構造等を確認することはできなかった。

３号墳からは遺物の出土はなかったので、築造時期等は不明である。本古墳も墳丘の規模、形等の調査は、来年度に予定している。

まとめ　これまで、倉科将軍塚古墳はその規模（全長78m）や墳形から、５世紀初めあるいは後半の築造とされ、築造時期が定かではなかった前方後円墳であったが、今回の調査で墳丘規模は82mであること、後円部墳丘の高さは14mであること、墳丘は二段築成であること、また墳丘は葺石で覆われ埴輪は墳頂・中段・裾に並べられていたことが確認された。墳丘規模82mは、長野県下の前方後円墳では森将軍塚古墳100m、川柳将軍塚古墳93mに次ぐ、県下３番目の墳丘規模である。また出土遺物の鉄鏃や短甲、埴輪等から５世紀前半代の古墳であることが明らかとなった。

今回の調査で注目されたのは、後円部や前方部の埋葬施設、２号墳等に短甲の副葬がみられたことである。倉科将軍塚古墳から出土した短甲は、いずれも小破片ではあったが、副葬されていたことは確認できた。また昨年度調査した有明山将軍塚古墳からも、短甲の一部としかわからない小札片が出土していることなど、５世紀前半代のこの地域の社会情勢を知る大きな手がかりが得られた。また、各埋葬施設から鉄鏃の出土があり、築造年代を探るうえで貴重な資料が得られた。

この市内前方後円墳範囲確認調査は、来年度は最終年度となり、これまでの調査成果をまとめる段階となる。なお、倉科将軍塚古墳の２号墳と３号墳については、墳丘規模等を確認する補足調査が予定されている。

なお、今回の調査で出土した鉄製品については、長野県立歴史館の協力を得て、Ｘ線写真撮影を行い、横本達也（徳島大学）、太田博之（本庄市教育委員会）両氏よりご教示をいただいた。

倉科将軍塚古墳
後円部中段
(西側トレンチ)

後円部裾
埴輪が原位置で出土
(北側トレンチ)

前方部中段
(南側トレンチ)

後円部竪穴式石室
(西側より)

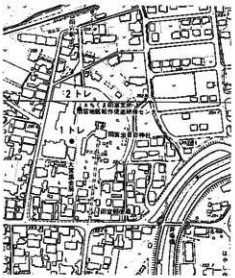
前方部竪穴式石室
(東側より)

2号墳竪穴式石室
（南側より）

2号墳短甲出土状態
（真上より）

Ⅲ　屋代遺跡群大宮遺跡の概要

1　調査遺跡名　屋代遺跡群大宮遺跡
　　（市台帳No.31-20調査記号OMY３）
2　所在地及び　更埴市大字雨宮字大宮１
　　土地所有者　雨宮坐日吉神社
3　原因及び　学術調査
　　事 業 者　更埴市教育委員会　生涯学習課
4　調査の内容　発掘調査(調査面積約100㎡)
5　調査期間　平成12年８月23日～平成12年９月27日
6　調査費用　2,000,000円（国庫補助1,000千円　県費補助300千円　市負担700千円）
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　　調査指導　木下正史　東京学芸大学教授
　　担 当 者　小野紀男　更埴市教育委員会
8　種別・時期　集落跡　弥生時代～中世
9　遺構・遺物　竪穴住居跡　古墳時代　６棟
　　土坑　古墳時代　５基
　　ピット　古墳時代　２基
　　出土遺物　土器片　弥生～平安時代　コンテナ５箱



第10図　大宮遺跡調査位置図

Ⅳ調査の所見

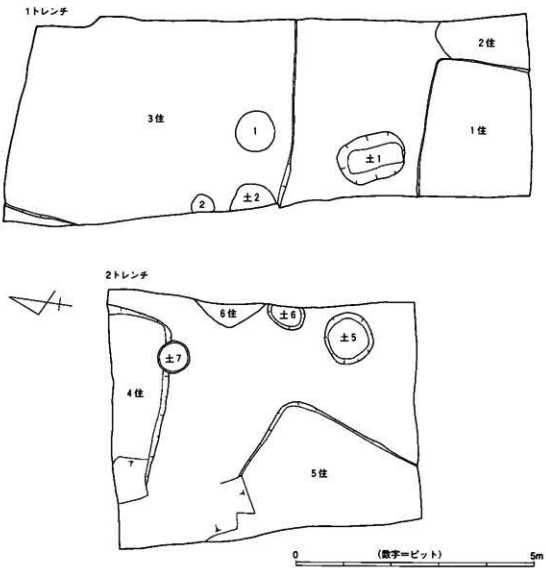
上信越自動車道建設や、国道403号土口バイパス建設などに伴う発掘調査によって、大型の掘立柱建物跡の検出や、国府・郡府を含む多数の木簡や唐三彩など特殊な遺物が出土したことから、屋代遺跡群周辺に官衙が存在していた可能性が指摘されているため、その存在を確認し保護することを目的として、平成８年度より国・県の補助を受けて調査を行っている。

今年度は、重要無形民俗文化財「雨宮の御神事」で知られる雨宮坐日吉神社境内地の調査を実施した。調査地周辺は、古くから布目瓦が採集できる地点として注目されており、調査地の北西約100mの地点で昭和37年に行われた調査では礎石建物跡が検出され、屋代寺跡推定地となっている。昭和58年度に実施した、雨宮転作促進研修センター建設に伴う大宮遺跡の発掘調査では、古墳時代～平安時代の住居跡が検出されており、また遺構の検出こそできなかったものの、弥生時代前期の土器片が出土している。

調査は、雨宮坐日吉神社境内に２か所の調査区を設定して実施した。検出した遺構は竪穴住居跡６棟などであるが、いずれも古墳時代に属するものと考えられ、官衙に関連すると考えられる遺構を検出することはできなかった。このうち、３号住居跡からは比較的多くの遺物が出土している。詳細な検討は行っていないが、一辺７m以上を測る大型の竪穴住居跡であり、出土遺物の中には管玉や滑石製の臼玉などがある。また、覆土には炭化物や焼土がレンズ状に堆積しており、住居廃絶後あまり時を置かずして何らかの焚火行為が行われたものと思われる。２トレンチからは、遺構の検出は

できなかったものの弥生時代前期～中期の土器片が出土している。沈線文や条痕文系の土器片であり、ほぼ完形に復原できるものもある。

今回の調査では、瓦片の出土はあったもののその出土量は非常に少なく、寺院あるいは官衙に関連する遺構は検出できなかった。出土遺物にも官衙に関連する時期のものはほとんど出土しておらず、古墳時代以前の遺物が多くを占めている。



第11図　大宮遺跡全体図

大宮遺跡
1トレンチ全景
(南側より)

2トレンチ全景
(南側より)

発掘調査風景
(北側より)

1号住居跡
(南側より)

3号住居跡
(北側より)

5号住居跡
(北西より)

4　屋代城跡　試掘調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　屋代城跡（市台帳No.183）
2　所在地及び　更埴市大字小島字寺前3075-3他
　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝市営住宅建設
　事 業 者　更埴市（建設課）
4　調査の内容　試掘調査（トレンチ１か所）
5　調査期間　平成12年10月12日
6　調査費用　重機負担
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　担 当 者　小野紀男
8　種別・時期　城館跡　　中世
9　遺構・遺物　なし

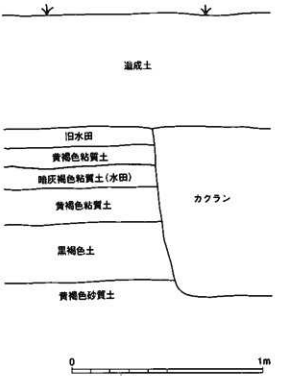
第12図　屋代城跡調査位置図

Ⅱ　調査の所見

調査地は屋代城跡の麓に当たり、居館の存在が想定される地点である。

工事予定地内に１か所の試掘トレンチを設定して調査を実施した。60cmほどの造成土の下には旧水田の層が認められ、その下層にも１面水田層が確認された。その下層からは、包含層の可能性のある黒褐色土の堆積が認められたが、遺構、遺物の検出はなかった。

今回の試掘調査では、埋蔵文化財は確認されなかったため、立会調査により保護に当たることとした。



第13図　屋代城跡土層断面

5　八幡遺跡群　試掘調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　八幡（やわた）遺跡群（市台帳No.85）
2　所在地及び　更埴市大字八幡字砂田2292他
　土地所有者　更埴市土地開発公社
3　原因及び　公共事業＝宅地造成
　事 業 者　更埴市土地開発公社
4　調査の内容　試掘調査（トレンチ３か所）
5　調査期間　平成12年12月22日
6　調査費用　39,900円
7　調査主体者　更埴市教育委員会
　担 当 者　小野紀男
8　種別・時期　散布地　奈良～平安時代
9　遺構・遺物　なし

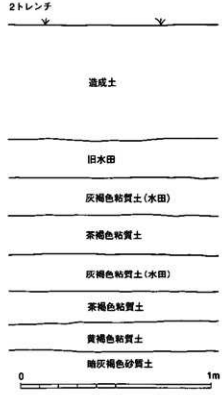
Ⅱ　調査の所見

当該地周辺では、国道18号線坂城更埴バイパス建設に伴い発掘調査が行われている。

工事予定地に３か所の試掘トレンチを設定して調査を行った。60cmほどの造成土の下層には、現水田面に対応する水田層を除いて、２面の水田層が確認された。いずれの水田層からも出土遺物はなく時期を判別することはできなかった。

試掘調査の結果、予定地内に水田面が存在していることが明らかとなったが、工事による掘削は当該水田層に達しないため、立会調査により保護に当たることとした。

第14図　八幡遺跡群調査位置図



第15図　八幡遺跡群土層断面

6　大宮遺跡　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　大宮（おおみや）遺跡（市台帳No.31-20）
2　所在地及び　更埴市大字雨宮字大宮
　土地所有者　長野県
3　原因及び　公共事業＝道路建設
　事 業 者　更埴建設事務所
4　調査期間　平成12年３月14日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担　当　者　小野紀男
6　種別・時期　集落跡　弥生～平安時代
7　遺構・遺物　なし

第16図　大宮遺跡調査位置図

Ⅱ　調査の所見

工事による掘削は140cmほどであったが、遺構、遺物とも検出されなかった。

7　土口遺跡　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　土口（どぐち）遺跡（市台帳No.29）
2　所在地及び　更埴市大字土口字東
　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝道路建設
　事 業 者　更埴市（建設課）
4　調査期間　平成12年７月24日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担　当　者　小野紀男
6　種別・時期　集落跡　縄文～平安時代
7　遺構・遺物　なし

第17図　土口遺跡調査位置図

Ⅱ　調査の所見

工事による掘削は30cmほどであり、遺構、遺物とも検出されなかった。

8　大穴遺跡　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　大穴遺跡（市台帳No.184）
2　所在地及び　更埴市大字森字大浦
　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝道路建設
　事 業 者　更埴市（建設課）
4　調査期間　平成12年８月23日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担　当　者　小野紀男
6　種別・時期　集落跡　古墳～平安時代
7　遺構・遺物　なし

第18図　大穴遺跡調査位置図

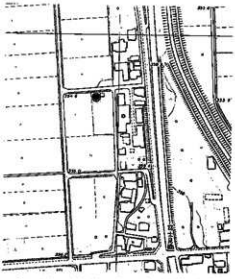
Ⅱ　調査の所見

舗装工事のみであり、下層への掘り込みはなかった。

9　更埴条里水田址　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　更埴条里水田址（市台帳No.29）
2　所在地及び　更埴市大字森字壱丁田460-4他
　土地所有者　黒岩満喜男
3　原因及び　民間事業＝移動通信基地局建設
　事 業 者　㈱シーテック　長野支社
4　調査期間　平成12年８月31日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担　当　者　小野紀男
6　種別・時期　水田址　平安時代～中世
7　遺構・遺物　なし



第19図　更埴条里水田址調査位置図

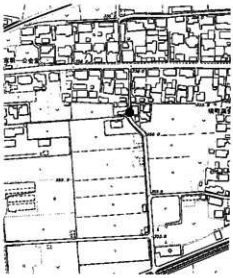
Ⅱ　調査の所見

80cmほどの盛土上からの掘削であり、遺構、遺物とも検出されなかった。

10　屋代遺跡群　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　屋代遺跡群（市台帳No.31）
2　所在地及び　更埴市大字雨宮字天野
　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝道路建設
　事 業 者　更埴市（建設課）
4　調査期間　平成12年10月27日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担 当 者　小野紀男
6　種別・時期　集落跡　弥生～平安時代
7　遺構・遺物　なし



第20図　屋代遺跡群調査位置図

Ⅱ　調査の所見

工事による掘削は50cmほどであり、遺構、遺物とも検出されなかった。

11　横まくり遺跡　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　横まくり遺跡（市台帳No.85-10）
2　所在地及び　更埴市大字八幡字横まくり
　土地所有者　更埴市
3　原因及び　公共事業＝道路建設
　事 業 者　更埴市（建設課）
4　調査期間　平成12年11月７日
5　調査主体者　更埴市教育委員会
　担 当 者　小野紀男
6　種別・時期　集落址　弥生～平安時代
7　遺構・遺物　なし

第21図　横まくり遺跡調査位置図

Ⅱ　調査の所見

工事による掘削は30cm程であり、遺構、遺物とも検出されなかった。

12　更埴条里水田址　立会調査

Ⅰ　調査の概要

1　調査遺跡名　更埴条里水田址（市台帳No.29）

2　所在地及び　更埴市大字屋代字清水

　土地所有者　長野県

3　原因及び　公共事業＝道路建設

　事業者　更埴建設事務所

4　調査期間　平成11年11月13日、12月25日

5　調査主体者　更埴市教育委員会

　担当者　小野紀男

6　種別・時期　水田跡　平安時代～中世

7　遺構・遺物　なし

第22図　更埴条里水田址調査位置図

Ⅱ　調査の所見

工事による掘削は60cmほどであり、遺構、遺物とも検出されなかった。

報告書抄録

ふりがな	へいせい12ねんど　こうしょくまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	平成12年度　更埴市埋蔵文化財調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小野紀男
編集機関	更埴市教育委員会　生涯学習課　文化財係
所在地	〒387-8511　長野県更埴市杭瀬下84番地　TEL026-273-1111
発行年月日	2001年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おおつかいせき 大塚遺跡	ながのけん　こうしょくし 長野県　更埴市 やしろ　おおつか 大字屋代字大塚	20216	31-1	36 32 19	138 8 6	20000601～ 20000619	60	防火水槽建設に伴う発掘調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大塚	水田址	平安	水田面　2面 畦畔　1基	土師器、須恵器	

更埴市埋蔵文化財調査報告書

発行日　平成13年3月31日
発　行　更埴市教育委員会
〒387－8511　長野県更埴市杭瀬下84番地
電話　(026) 273－1111
印　刷　信毎書籍印刷株式会社
〒381－0037　長野県長野市西和田470
電話　(026) 243－2105